

仕事のやりがいと周囲の理解が 両立の支えに



総務部
総務経理課長
野村 笑美

野村さんのプロフィール

1986年 入社 総務部 経理担当
1997年 第一子出産(産休取得後職場復帰)
1998年 総務部 係長
2002年 総務部 総務経理課長
現在に至る

My Story

母が手に職を持っており、小さい頃から「20年は働かないとだめだよ」と言われてきたこともあり、入社当初から、長く働き続けようと思っていました。また、当時は実家から通勤していたこともあり、将来結婚して出産したとしても、実家のサポートを受けることができるため、働き続けることはできるだろう、と考えていました。私が当社に入社した頃は、女性従業員は結婚、妊娠を機に退職するのが一般的でしたが、漠然と、長く働き続けよう、と考えていました。

その後、結婚や妊娠を当時の社長(現会長)に報告した際に、「まさか辞めないよね」と言っていたが、働き続けるようにと言っていたことで、このまま働いていてもよいのだな、と考えることができました。一方で、出産休暇の取得は私がこの会社の第一号であり、出産・育児をしながら働き続けている女性の前例もなかったため、育児を理由に仕事が中途半端になってしまったり、また子どもの熱などで仕事に穴を開けて同僚に迷惑を掛けることはしたくないと考えていました。

しかし、実際に出産した時には実家の母が亡くなってしまったため、育児において実家のサポートを受けることができなくなっていました。そこで出産休暇中に情報収集したり、市の子育て支援センターなどに相談したところ、24時間の託児所を紹介してもらうことができました。

建設業は朝が早く、また通常は土日が休みですが、イベントなどを土日に開催することも多いため、土日や急な残業の時にも安心して子どもを見られる託児所の存在は非常にありがたく、助かりました。また、小学校に入学してからも、学童保育の後に利用したり、学童保育が使えない高学年になってからも夜まで託児所で面倒を見てもらえたため、育児に関してはこの託児所に多分

面で助けてもらいながら、働き続けることができました。

長年働き続けて、経理部門でのスキルも向上した1998年、係長に昇進しました。その時は、長年一生懸命勤務してきたことが認められたのだと思い、嬉しかったです。また、当時の上司も女性でしたので、女性が管理職に登用されることについては、特に気になりませんでした。そして、その上司が退職された時に、課長に昇進しました。

仕事のやりがい

当社では、社長が常に新しいことを導入してイノベーションを実現していこうという方針を持っており、その考えを実現するために日々たくさんのことを学び、取り組み続けています。学び続けることは大変ですが、いつも充実していると感じるため、仕事が辛くて辞めようと思ったことは一度もありません。

また、当社の社長は育児の大変さや仕事と家庭を両立

Voice

私のターニングポイント

社長が「若い時に仕事で教えてもらったことは、将来年を取った時には先生になって若い人に教えることによってお返ししなければならぬんだよ」とおっしゃったことは大変心に響いており、今でも私が仕事を続けていく上で心がけていることの一つです。私も若い時にたくさんのことを学ぶ機会をいただきましたので、これからはそれを若い方たちにお返ししていくことが私の役目だと思って、若手の相談に乗ったり、さまざまなサポートをしています。

また、その時に社長が「女性には敵わないんだよ。女性がいるから社会が成り立っているのだから」とおっしゃったことも心の支えとなっており、女性ならではの気遣い、心遣いにより、職場や仕事をスムーズに進められるように心がけています。

させることの大変さに理解を示して下さる方であったため、お盆や年末の託児所が休みの時期には、子どもを会社に連れてくることを許して下さいました。このように周囲の理解も大きかったと思います。

管理職として心がけていること

部下に仕事を任せるときに、ただ「これをやって」と指示するのではなく、何のためにやらなければならないのか、あなたにどうなって欲しいからこの仕事ををお願いしたい、というように、できる限り説明をして納得感を持って仕事に努めてもらえるように心掛けています。その方がお互いにとって誤解なく前向きに仕事が進められると

様々な人材が働き続けられる 職場を目指して



執行役員
総務部長
貝塚 淳一

思うからです。

現在は、総務経理課長として会社の総務全般を見ており、人事労務に関する制度についても、常に新しいものを勉強して当社への導入を検討したり、導入した制度について社員に周知したりしています。特に、妊娠・出産した従業員も働き続けることができるように、自分の経験を活かして相談に乗ったり、関連の制度について説明することにより積極的にサポートをしています。

また、私がここまで働き続けてくるためには、家族の理解と協力は不可欠であったことから、できるだけ会社のことを社員の家族に理解していただくため、毎年家族も参加できるイベントを企画・開催しています。

職していましたが、野村課長が結婚・出産後も仕事と家庭を両立させてしっかり働き続けている姿を見せていることから、従業員の認識にも変化が生じ、最近では結婚・出産後も継続して働く女性従業員が増えてきました。

様々な従業員が働き続けられる職場を目指して

家庭を持つ従業員に長く働き続けてもらうためには、長時間労働をさせないようにすることが大事だと考えています。働き続けるためには家族の理解は不可欠です。日常的に家族との時間も確保するため、早く帰宅させるようにしています。

また、労働時間にさまざまな制約がある従業員も働き続けることができるように、「短時間正社員制度」を導入しています。この制度を利用することにより、様々な理由により労働時間に制約のある従業員も、家庭とのバランスを取りながら、働き続けることが可能となっています。

当社の人材登用方針

当社には女性に特化した人材登用方針等はありません。男性にも女性にも同じように活躍して欲しいと考えています。それでも以前は、男性は外、女性は内勤、という傾向がありましたが、近年では男女の差はなくなりつつあるように感じています。例えば、当社では男女ともに、現場監督や営業職として活躍しています。

また、以前は多くの女性従業員が結婚、出産を機に退

企業プロフィール

株式会社小坂工務店

- 設立：1958年
- 本社所在地：青森県三沢市
- 事業内容：総合建設業、不動産仲介・販売・賃貸業、携帯電話販売業
- 従業員数：45名(うち女性21名)